

## コロンビアの最新動向(6月1日~6月15日)

### I. 政治・経済

#### 1. コロンビア政府が国際機関への債務の繰り上げ返済を予定

- 6月4日、政府は今後5年間で、最大5億ドルの国際機関への債務の繰り上げ返済を予定していると発表した。対象はCAF(アンデス開発会社)、WB(世界銀行)、IDB(米州開発銀行)に対する債務のうち、2009年から2017年の間に満期を迎えるもの。繰り上げ返済により、金利負担を約1.9億ドル削減できる見通し。
- コロンビアの対外公的債務231億ドル(2007年4月末時点)のうち、同機関からの借り入れは41%に相当する94億ドルとなっている。

#### 2. 第1四半期の貿易収支は赤字

- 6月5日、政府が発表したところによると、第1四半期の貿易収支実績は8.1億ドルの赤字となった(前年同期は1.6億ドルの黒字)。輸入額が69.3億ドルと前年同期比31%の大幅な増加となった一方で、輸出額は61.2億ドルと前年同期比12%の増加にとどまった。
- 輸入が大幅に増加したのは自動車とその部品で、前年同期比で59%の増加。主な輸入先はメキシコ、日本、韓国となっている。
- 最大の輸出先である米国への輸出は前年同期比で3.8%の減少、コロンビア輸出全体に占めるシェアは42%から36%に縮小した。一方、ベネズエラへの輸出は前年同期比で65%と大幅に増加、コロンビア輸出全体に占めるシェアは9%から20%に拡大した。ベネズエラでは政府による土地収用や価格規制により食料品が不足、隣国であるコロンビアからの輸入需要が高まっている。

#### 3. S&P社がコロンビア外国債の信用格付けを変更

- 6月12日、S&P社はデフォルト時の回収率など新しい評価法により、コロンビア外国債の信用格付けを変更、「BB+」から「BBB-」へ引き上げを行った。ただし、国としてのコロンビアの格付けは「BB+」に据え置かれるため、変更は外貨建ての外国債のみであった。
- この変更を受け、政府は12日、2027年に満期を迎える10億ドル分のペソ建て外国債を発行、13日に2008年から2013年に満期を迎える8億ドル分のドル建て外国債の買い戻しを行った。残りの2億ドルは対外債務の返済に引き当てられる見通し。
- 本オペレーションにより、コロンビアはドル建て短期債を大幅に削減、平均負債期間を延長することに成功した。

## II. 外交

### 1. 仏サルコジ大統領、FARC との和平交渉に介入

- 6月4日、ウリベ大統領は、拘留中のコロンビア革命軍(FARC)幹部、ロドリゴ・グランダ氏を釈放した。グランダ氏は「FARCの外相」とも呼ばれる重要人物。仏のサルコジ大統領からFARC人質事件<sup>1</sup>解決への要請を受け、今回の措置がとられた。
- サルコジ大統領は、6月5日にドイツで開催された G8において、コロンビアにおける人質事件について触れ、主要各国にこの問題への認識を促した。主要国首脳はウリベ大統領の取り組みをFARC との和平交渉、人質事件解決のための重要なステップと評価している。

## III. 石油その他の資源セクター

### 1. 政府が長期エネルギー計画を発表

- 6月6日、エネルギー鉱物計画局(UPME)は、コロンビアのエネルギー政策策定の基となる長期国家エネルギー計画を発表した。
- 内容は、コロンビアの現在のエネルギー分野における需要と供給能力について分析し、2025年までの基本方針を打ち出したもの。具体的には太平洋岸地域における精油所建設プロジェクト、北部地域における液化天然ガスの再ガス化プロジェクト、石油・石炭製品の輸出増加計画などが取り上げられている。
- また、計画ではバイオ燃料に注目しており、国内外での市場開拓の必要性について述べられている。

以上

<sup>1</sup> 2002年2月に元コロンビア大統領候補で仏国籍を持つイングリッド・ベタンクールさんがFARCに誘拐され、現在も人質となっている事件

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。